

平成 22 年 11 月 19 日
 社団法人 日本病院薬剤師会

日本病院薬剤師会パイロット調査

「薬剤師が行う薬剤業務および看護師が行う医行為の範囲に関する研究」

調査の概略

1. 調査内容

厚生労働省チーム医療推進のための看護業務検討WGにおいて選定された行為のうち、「薬剤の選択・使用」など薬物治療・医薬品安全管理に係る項目について、看護師が行う医行為の範囲だけでなく、薬剤師が行う薬剤業務の範囲も合わせて試行的に調査した。

2. 調査対象及び調査方法

調査対象は、日病薬会員が所属する医療機関のうち、153 施設を抽出しメールにて調査票を 11 月 7 日に送付し、11 月 12 日を期限としエクセルにて回答する方法をとった。

(1) 回答病院数及び回答率

回答病院数は 117 施設であり、回答者数は、227 件、回収率は 74.2%であった。

(2) 単純集計の概要

施設区分別回答数

施設区分	回答施設数	回答率 (%)	回答者数 (人)	回答率 (%)
特定機能病院	31	26.5	64	28.2
特定機能病院以外の病院	86	73.5	163	71.8
合計	117	100	227	100

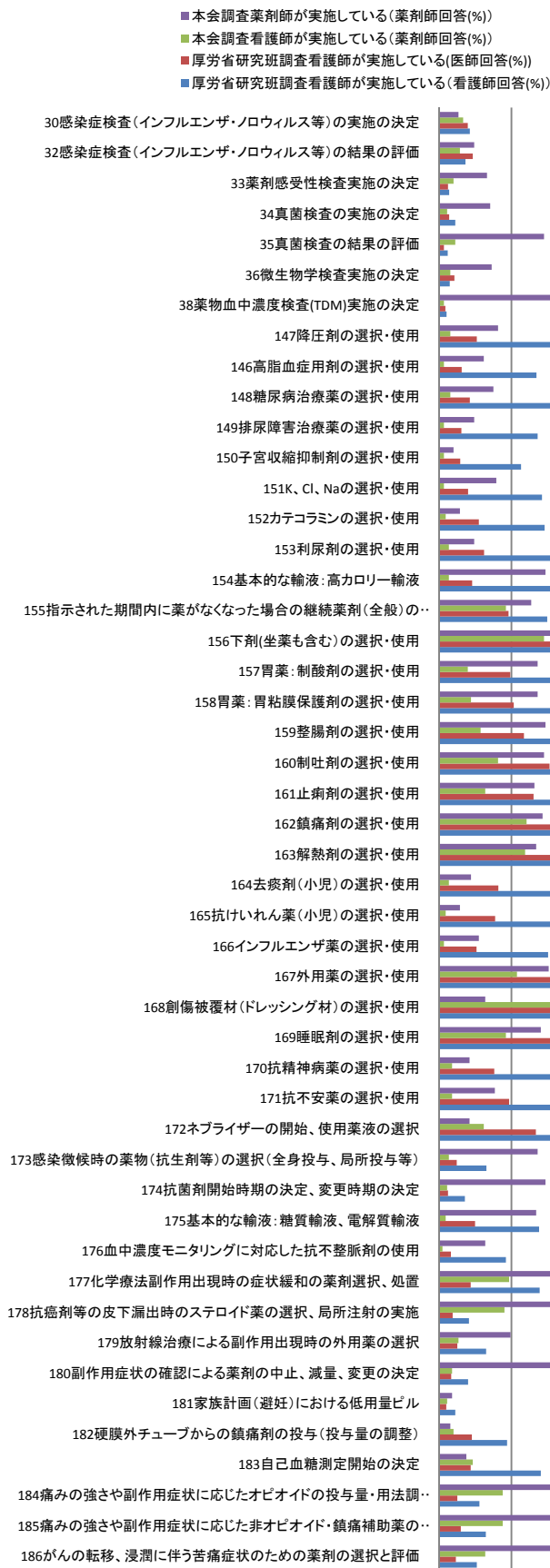
病床規模別回答数

病床規模区分	回答施設数	回答率 (%)	回答者数 (人)	回答率 (%)
20～99 床	1	0.9	1	0.4
100～199 床	8	6.8	15	6.6
200～299 床	4	3.4	7	3
300～399 床	20	17.1	39	17.2
400～499 床	15	12.8	27	11.9
500 床以上	69	59.0	138	60.8
合計	117	100	227	100

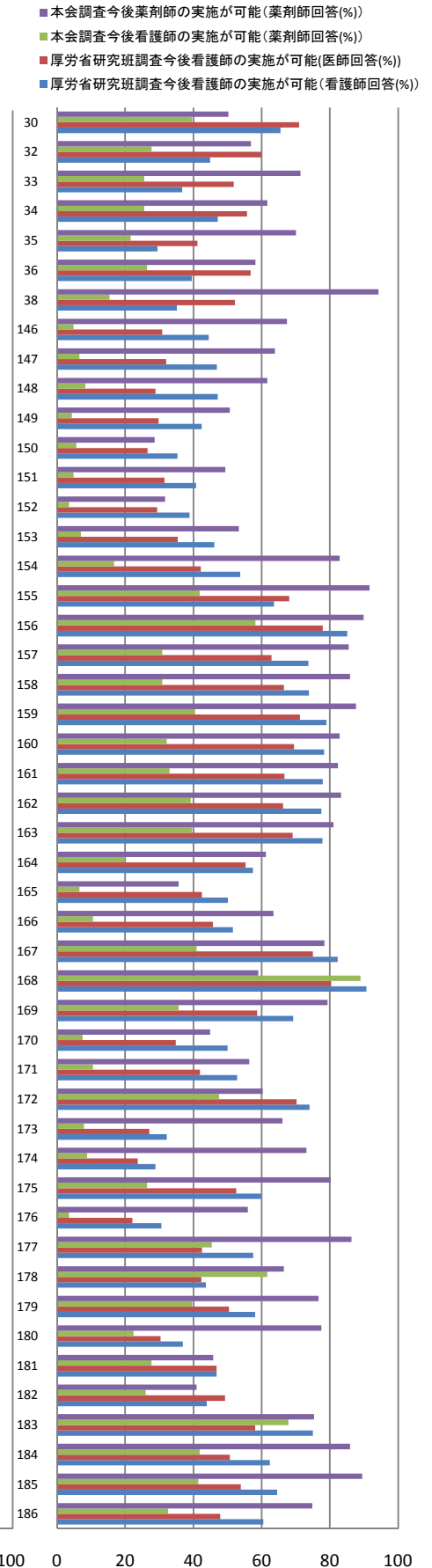
日本病院薬剤師会パイロット調査 回答数 117施設 227名 (回答率74.2%)									
薬剤師回答									
現在について			今後について						
			A	B	看護師の実施が可能			E	
医療処置項目			薬剤師が実施している	看護師が実施している	医師が実施すべき	薬剤師の実施が可能	計	看護師一般	特定看護師(仮称)
薬剤の選択・使用 (投与中薬剤の病態に応じた薬剤使用)	146	高脂血症用剤の選択・使用	12.3%	1.3%	32.2%	67.4%	4.8%	0.9%	4.0%
	147	降圧剤の選択・使用	16.3%	3.1%	35.2%	63.9%	6.6%	0.9%	5.7%
	148	糖尿病治療薬の選択・使用	15.0%	3.1%	38.3%	61.7%	8.4%	0.4%	7.9%
	149	排尿障害治療薬の選択・使用	9.7%	1.3%	47.1%	50.7%	4.4%	0.4%	4.0%
	150	子宮収縮抑制剤の選択・使用	4.0%	1.3%	66.5%	28.6%	5.7%	0.4%	5.3%
	151	K、Cl、Naの選択・使用	15.9%	1.3%	49.8%	49.3%	4.8%	0.9%	4.0%
	152	カテコラミンの選択・使用	5.7%	1.8%	66.1%	31.7%	3.5%	0.0%	3.5%
	153	利尿剤の選択・使用	9.7%	2.6%	44.9%	53.3%	7.0%	1.8%	5.3%
	154	基本的な輸液:高カロリー輸液	29.5%	2.6%	15.9%	82.8%	16.7%	4.0%	12.8%
	155	指示された期間内に薬がなくなった場合の継続薬剤(全般)の継続使用	25.6%	18.5%	7.0%	91.6%	41.9%	13.7%	28.2%
薬剤の選択・使用 (臨時薬)	156	下剤(坐薬も含む)の選択・使用	31.3%	29.1%	9.7%	89.9%	58.1%	22.9%	35.2%
	157	胃薬:制酸剤の選択・使用	27.3%	7.9%	13.7%	85.5%	30.8%	8.8%	22.0%
	158	胃薬:胃粘膜保護剤の選択・使用	27.3%	8.8%	14.1%	85.9%	30.8%	10.1%	20.7%
	159	整腸剤の選択・使用	29.5%	11.5%	12.3%	87.7%	40.5%	14.1%	26.4%
	160	制吐剤の選択・使用	29.1%	16.3%	17.2%	82.8%	32.2%	10.1%	22.0%
	161	止痢剤の選択・使用	26.4%	12.8%	18.1%	82.4%	33.0%	10.1%	22.9%
	162	鎮痛剤の選択・使用	28.6%	24.2%	15.9%	83.3%	39.2%	12.8%	26.4%
	163	解熱剤の選択・使用	26.9%	23.8%	18.1%	81.1%	39.6%	12.8%	26.9%
	164	去痰剤(小児)の選択・使用	8.8%	2.6%	36.1%	61.2%	19.8%	7.0%	12.8%
	165	抗けいれん薬(小児)の選択・使用	5.7%	1.8%	60.8%	35.7%	6.6%	1.3%	5.3%
	166	インフルエンザ薬の選択・使用	11.0%	1.3%	36.6%	63.4%	10.6%	0.9%	9.7%
	167	外用薬の選択・使用	30.4%	21.6%	19.4%	78.4%	41.0%	13.7%	27.3%
	168	創傷被覆材(ドレッシング材)の選択・使用	12.8%	47.6%	12.3%	59.0%	89.0%	35.2%	53.7%
	169	睡眠剤の選択・使用	28.2%	18.5%	19.4%	79.3%	35.7%	7.5%	28.2%
	薬剤の選択・使用 (特殊な薬剤等)	170	抗精神病薬の選択・使用	8.4%	3.5%	54.2%	44.9%	7.5%	1.3%
171		抗不安薬の選択・使用	15.4%	3.5%	42.7%	56.4%	10.6%	2.2%	8.4%
172		ネブライザーの開始、使用薬液の選択	8.4%	12.3%	30.4%	60.4%	47.6%	15.0%	32.6%
173		感染徴候時の薬物(抗生剤等)の選択(全身投与、局所投与等)	27.3%	2.6%	33.9%	66.1%	7.9%	0.9%	7.0%
174		抗菌剤開始時期の決定、変更時期の決定	29.5%	2.2%	28.2%	73.1%	8.8%	0.4%	8.4%
175		基本的な輸液:糖質輸液、電解質輸液	26.9%	1.8%	18.5%	80.2%	26.4%	5.3%	21.1%
176		血中濃度モニタリングに対応した抗不整脈剤の使用	12.8%	0.9%	43.6%	55.9%	3.5%	0.4%	3.1%
177		化学療法副作用出現時の症状緩和の薬剤選択、処置	48.5%	19.4%	14.1%	86.3%	45.4%	5.7%	39.6%
178		抗癌剤等の皮下漏出時のステロイド薬の選択、局所注射の実施	33.0%	18.1%	24.2%	66.5%	61.7%	9.7%	52.0%
179		放射線治療による副作用出現時の外用薬の選択	19.8%	5.3%	19.8%	76.7%	39.6%	5.3%	34.4%
検査	180	副作用症状の確認による薬剤の中止、減量、変更の決定	34.4%	3.5%	23.8%	77.5%	22.5%	4.8%	17.6%
	181	家族計画(避妊)における低用量ピル	3.5%	2.2%	44.1%	45.8%	27.8%	2.6%	25.1%
	182	硬膜外チューブからの鎮痛剤の投与(投与量の調整)	3.1%	4.0%	54.6%	41.0%	26.0%	3.1%	22.9%
	183	自己血糖測定開始の決定	7.5%	9.3%	20.7%	75.3%	67.8%	18.9%	48.9%
	184	痛みの強さや副作用症状に応じたオピオイドの投与量・用法調整、想定されたオピオイドローテーションの実施時期決定:WHO方式がん疼痛治療法等	45.4%	17.6%	13.7%	85.9%	41.9%	4.0%	37.9%
	185	痛みの強さや副作用症状に応じた非オピオイド・鎮痛補助薬の選択と投与量・用法調整:WHO方式がん疼痛治療法等	47.1%	17.6%	11.5%	89.4%	41.4%	3.5%	37.9%
	186	がんの転移、浸潤に伴う苦痛症状のための薬剤の選択と評価	37.4%	12.8%	23.3%	74.9%	32.6%	0.9%	31.7%
	30	感染症検査(インフルエンザ・ノロウイルス等)の実施の決定	5.3%	6.6%	40.5%	50.2%	39.6%	6.6%	33.0%
	32	感染症検査(インフルエンザ・ノロウイルス等)の結果の評価	9.7%	5.7%	38.8%	56.8%	27.8%	3.5%	24.2%
	33	薬剤感受性検査実施の決定	13.2%	4.0%	27.8%	71.4%	25.6%	3.5%	22.0%
	薬剤感受性検査結果の評価	34.8%	4.8%	21.6%	78.0%	19.8%	2.2%	17.6%	
34	真菌検査の実施の決定	14.1%	2.2%	36.1%	61.7%	25.6%	4.0%	21.6%	
35	真菌検査の結果の評価	29.1%	4.4%	29.5%	70.0%	21.6%	2.2%	19.4%	
36	微生物学検査実施の決定	14.5%	3.1%	39.6%	58.1%	26.4%	4.0%	22.5%	
	微生物学検査の結果の評価	27.3%	4.8%	34.4%	64.3%	20.7%	1.8%	18.9%	
38	薬物血中濃度検査(TDM)実施の決定	49.8%	1.3%	5.3%	94.3%	15.4%	2.2%	13.2%	
	薬物血中濃度検査(TDM)の結果の評価	75.8%	0.9%	4.4%	96.5%	8.4%	1.8%	6.6%	

項目	内容	現在				今後				
		薬剤師のみが実施	看護師のみが実施	薬剤師・看護師が分担して実施	薬剤師、看護師及び他職種が分担して実施	薬剤師のみによる実施が適当	看護師のみによる実施が適当	薬剤師・看護師が分担して実施が適当	薬剤師、看護師及び他職種が分担して実施が適当	
1	注射薬のミキシング	無菌製剤処理								
		抗菌性腫瘍剤	78.4%	0.0%	17.6%	1.8%	83.3%	0.4%	9.3%	5.3%
		中心静脈栄養(TPN)	47.6%	13.2%	32.2%	1.8%	60.4%	2.2%	28.6%	7.0%
		その他の注射薬	21.1%	43.2%	27.8%	3.5%	34.4%	10.6%	44.5%	9.3%
	投与準備(非無菌的調製)	4.4%	63.0%	25.6%	5.3%	12.8%	25.1%	47.6%	11.5%	
2	持参薬整理や内服薬の分包などの管理	持参薬整理								
		薬品名・用法用量などの確認	38.8%	0.4%	55.1%	3.5%	65.6%	0.0%	26.9%	5.3%
		確認に基づく医師への服薬計画の提案や薬物治療管理	50.7%	1.8%	44.1%	0.9%	79.3%	0.0%	18.1%	0.4%
		内服薬の分包								
	調剤時の内服薬の分包(一包化調剤)	91.6%	0.4%	5.3%	0.9%	85.5%	0.4%	5.3%	6.2%	
	持参薬などの調剤済みの薬の小分けや分包	35.7%	15.4%	45.4%	1.3%	44.1%	5.7%	39.2%	8.8%	
3	配置薬(救急カート内の薬品を含む)点検と補充	点検と補充にかかる日常業務	4.8%	18.1%	63.4%	11.9%	14.5%	9.3%	53.3%	21.6%
		点検と補充状況の確認と管理	20.3%	2.6%	67.0%	8.8%	31.3%	2.6%	50.7%	14.1%

「現在について」医薬品に関する項目



「今後について」医薬品に関する項目



看護業務実態調査に関するアンケート調査について

日本病院薬剤師会パイロット調査
「薬剤師が行う薬剤業務及び看護師が行う
医行為の範囲に関する研究」結果を含めて

社団法人 日本病院薬剤師会
常務理事 土屋 文人



チーム医療とは

「医療に従事する多種多様なスタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること」

平成22年3月19日 厚生労働省
「チーム医療の推進に関する検討会」報告書より

看護業務実態調査に関するアンケート 調査について(回答)

社団法人 日本病院薬剤師会

- ・ 回答様式及び別紙
- ・ 厚生労働省医政局長通知(医政発0430第1号)「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」日本病院薬剤師会による解釈と具体例(Ver.1.1)
- ・ 日本病院薬剤師会パイロット調査「薬剤師が行う薬剤業務および看護師が行う医行為の範囲に関する研究」調査の概略

3

Q1 看護業務実態調査の結果で、今後、看護師が実施可能と回答があった業務・行為について、どのように考えるか。

- 「薬剤の選択・使用」の設問に関して、丁寧な説明がなされないままに調査が実施されたことは甚だ遺憾である。調査に用いられた広義の薬剤群名では使用薬剤が特定されず、使用状況や治療内容も不明であるため、薬物治療や処置等の有効性・安全性が確保されないことが懸念される。
- 薬物治療の安全性確保の観点から、看護業務調査の結果だけに基づいて、今後、看護師による「薬剤の選択・使用」の範囲を拡大することには賛同いたしかねる。少なくとも、薬剤の取り扱いに関する看護業務の検討においては医師や薬剤師の意見を重視して議論する必要がある。
- 看護師自身による「薬剤の選択・使用」の実施可能率は高いと回答されている薬剤についても、投与禁忌・慎重投与の薬剤や重篤な有害反応も報告されている薬剤も含まれており、薬に関する高い専門的知識が求められるので、看護師による今後の業務範囲の拡大には慎重であるべきと考える。

4

Q2 看護業務実態調査の結果で、現在看護師が行っている業務・行為のうち、看護師以外の職種による実施が適当との回答があった業務・行為について、どのように考えるか。

- 調査項目について、薬剤に関する項目「注射薬のミキシング」「持参薬整理や内服薬の分包などの管理」「配置薬(救急カート内の薬品を含む)点検と補充」は、質問内容が不明瞭である。従って、回答者のとらえ方が様々であると推測される。
- 設問設定について、「他職種による実施が適当と考えられる業務」について調査するのであれば、各々の質問事項についてどのような職種を考えるのかについても問うべきである。また、該当する他職種からの回答を求めたり、医療現場の現実として他職種との分担実施の可能性も調べるなど、丁寧な調査を実施すべきである。

5

Q3 チーム医療の推進の観点から、医師・看護師と分担・連携することができる業務(今後実施が可能と考えられる業務を含む。)等について記入ください。

- 日本病院薬剤師会は、チーム医療推進の観点から、専門性を有する薬剤師が業務を分担して連携・補完することで患者の状況に的確に対応した安全かつ有効な医療が提供できると考え、平成22年4月30日付の厚生労働省医政局長通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」に基づき、「解釈と具体例」を示したところである。薬剤師は、薬物療法に関しては、すべてに責任を持って業務にあたる所存である。その際、現行法の下においては、薬物治療管理に関する各業務については、薬剤師が医師を始めチームのメンバーと十分な連携・協議の下に実施することは言うまでもない。
- 日本病院薬剤師会としては、これらの薬剤関連業務について「看護業務検討ワーキンググループ」だけで看護師一般あるいは特定看護師の業務拡大が議論されることは極めて遺憾である。「薬剤の選択・使用」などの薬剤関連業務については「チーム医療推進方策ワーキンググループ」においても十分に議論されることをお願いしたい。さらに、看護師のみならず薬剤師についても業務範囲の更なる拡大について「チーム医療推進会議」の下で検討して頂きたい。

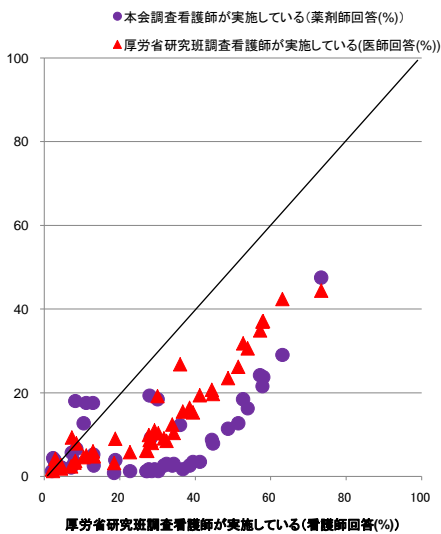
6

日本病院薬剤師会パイロット調査 「薬剤師が行う薬剤業務および看護師が行う医行為の範囲に関する研究」

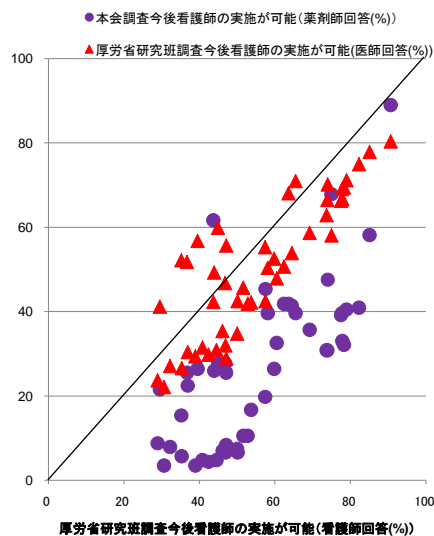
- ・調査内容 厚生労働省チーム医療推進のための看護業務検討WGにおいて選定された行為のうち、薬剤師が実施する場合には医師との連携協働を前提として「薬剤の選択・使用」など薬物治療・医薬品安全管理に係る項目について、看護師が行う医行為の範囲だけでなく、薬剤師が行う薬剤業務の範囲について調査を実施。
- ・回答者 日病薬会員が所属する医療機関の薬剤師
- ・調査期間 平成22年11月7日～11月12日
- ・回答施設数 117施設 ・回答者数 227人
- ・回収率 74.2%

7

「薬剤の選択・使用」及び「検査(薬剤・薬物治療関連)」 現在について



今後について



© 社団法人 日本病院薬剤師会

8

日本病院薬剤師会パイロット調査結果の概要及び考察

- 看護師の現在の実施率及び今後実施可能率について、職種間で回答結果にばらつきがみられた。
- 「薬剤の選択・使用」及び「検査(薬剤・薬物治療関連)」に関して、本会調査の薬剤師回答における看護師による現在の実施率及び今後実施可能率、厚生省研究班調査の医師回答におけるそれよりも全般的に低い傾向にあった。
- 「薬剤の選択・使用」及び「検査(薬剤・薬物治療関連)」には薬剤師も深く関与している実態がある。
- 従って、薬物治療の安全性確保の観点から、看護業務調査の結果だけに基づいて、今後、看護師による「薬剤の選択・使用」の範囲を拡大することには賛同いたしかねる。少なくとも医薬品の取り扱いに関する看護業務の検討においては医師や薬剤師の意見を重視して議論する必要があると考える。

9

「現在薬剤師が実施している」降順リスト(薬剤師回答) 薬剤の選択・使用に関する項目 一部抜粋

		現在薬剤師が実施している	今後薬剤師の実施が可能	
各医療処置項目		薬剤師回答	薬剤師回答	
1	177	化学療法副作用出現時の症状緩和の薬剤選択、処置	48.5%	86.3%
2	185	痛みの強さや副作用症状に応じた非オピオイド・鎮痛補助薬の選択と投与量・用法調整:WHO方式がん疼痛治療法等	47.1%	89.4%
3	184	痛みの強さや副作用症状に応じたオピオイドの投与量・用法調整、想定されたオピオイドローテーションの実施時期決定:WHO方式がん疼痛治療法等	45.4%	85.9%
4	186	がんの転移、浸潤に伴う苦痛症状のための薬剤の選択と評価	37.4%	74.9%
5	180	副作用症状の確認による薬剤の中止、減量、変更の決定	34.4%	77.5%
6	178	抗癌剤等の皮下漏出時のステロイド薬の選択、局所注射の実施	33.0%	66.5%
7	156	下剤(坐薬も含む)の選択・使用	31.3%	89.9%
8	167	外用薬の選択・使用	30.4%	78.4%
9	159	整腸剤の選択・使用	29.5%	87.7%
10	154	基本的な輸液:高カロリー輸液	29.5%	82.8%
11	174	抗菌剤開始時期の決定、変更時期の決定	29.5%	73.1%
12	160	制吐剤の選択・使用	29.1%	82.8%
13	162	鎮痛剤の選択・使用	28.6%	83.3%
14	169	睡眠剤の選択・使用	28.2%	79.3%
15	158	胃薬:胃粘膜保護剤の選択・使用	27.3%	85.9%
16	157	胃薬:制酸剤の選択・使用	27.3%	85.5%
17	173	感染徴候時の薬物(抗生剤等)の選択(全身投与、局所投与等)	27.3%	66.1%
18	163	解熱剤の選択・使用	26.9%	81.1%
19	175	基本的な輸液:糖質輸液、電解質輸液	26.9%	80.2%
20	161	止痢剤の選択・使用	26.4%	82.4%
21	155	指示された期間内に薬がなくなった場合の継続薬剤(全般)の継続使用	25.6%	91.6%
22	179	放射線治療による副作用出現時の外用薬の選択	19.8%	76.7%

日本病院薬剤師会パイロット調査結果より © 社団法人 日本病院薬剤師会

10

薬剤師が積極的に取り組む薬剤業務

- ・ 薬物療法プロトコル・マネジメント
- ・ 積極的な処方提案(患者情報を随時把握)
- ・ 薬学的管理(患者の副作用の状況の把握、服薬指導等)
- ・ 医療安全のためのモニタリング(フィジカルアセスメント)
- ・ 継続的な治療管理
- ・ 外来化学療法患者への薬剤管理指導、インフォームド・コンセント
- ・ 持参薬を継続使用する時のリスク患者情報の収集・薬歴管理
- ・ 抗がん薬等の無菌調製
- ・ 他の医療スタッフへの助言・相談